

発足から40年の歩みを音楽で振り返る
迫力の演奏に送られる惜しみない拍手

一関交響吹奏楽団(菅原政俊団長)の「第40回演奏会」は12月10日、一関文化センターで開かれ、一関市民合唱団との合同演奏など、発足から40年の節目を迫力の音楽で飾りました。演奏会は3部構成。1部では全日本吹奏楽コンクール課題曲を中心に演奏し、2部では合唱団との合同ステージ、3部では映画主題歌など若者向けのポップスを披露しました。花泉町の千葉昭子さん(42)、百花さん(花泉中3年)、彩花さん(花泉小6年)は「とても迫力のある演奏。来てよかった」と興奮していました。同楽団は年2回の演奏会のほか、地域での音楽指導、訪問演奏やコンクールへの参加などに取り組んでいます。



歴史ある中世の公事貢納を現代に再現
10回目の骨寺村荘園米納めに100人が参加

本寺地区地域づくり推進協議会(佐藤勲会長)が主催する「骨寺村荘園中尊寺米納め」は12月11日、本寺地区で行われ、県内外から参加した約100人が中尊寺に荘園米などを奉納しました。出発式で佐藤会長は「大勢の人たちの参加に感謝」とあいさつ。一行は、駒形根神社をホラ貝の合図で出発。吹雪の中、米俵や薪などを背負い、深雪を一步一步踏みしめて慈恵大師拜殿を経由して中尊寺を目指しました。参加した岩手大学3年の秋葉紗衣さんは「まるで昔話にでてくるような風景。1年生から田植えや稲刈りに参加しています。本寺の魅力は人の温かさですね」と話してくれました。



22万2千人の心とお腹を満たす大イベント
食を通じて古里の魅力を発信

ご当地グルメによるまちおこしの祭典「B-1グランプリ in 東京・臨海副都心」は12月3、4日の両日、東京都内で行われました。今回は本市といちのせきハラミ焼なじょったべ隊が協力して出展、一関市の魅力と自慢の料理で故郷一関市を全国に発信しました。今大会は全国から56市町が出展。2日間で20万2千人(主催団体発表)が来場しました。応援に駆け付けた大東町出身の熊谷里美さん(23)は「東京に住んでいて一関市を応援できてうれしい。これからも協力したいです」と話し、食を通じて絆を深めました。



千厩アイスアリーナが今シーズンの営業を開始
冬のレジャー・アイススケートを満喫

千厩アイスアリーナは12月3日、今シーズンの営業を開始しました。同日は無料開放ということもあり、オープンを心待ちにした大勢の親子連れなどが初滑りを楽しみました。開館セレモニーでは、関係者らがテープカットで営業開始を祝福。来場者は、手をつないで滑ったり、かけっこをしたりして思い思いにスケートを楽しんでいました。滝沢から訪れた佐藤誠志さん(69)は「20年以上前に子供たちと来た。今度は孫が遊びに来るので練習しに来た」と息を弾ませながら話してくれました。同施設は1994年に開業し、今年で23年目。今シーズンは、3月21日まで営業します。

生徒の充実した学校生活を願う
磐井中学校の整備事業が完了

磐井中学校(加藤清校長、生徒542人)の落成式は11月26日、同校体育館で行われ、生徒、教員や関係者ら約740人が新校舎の完成を祝いました。長田仁副市長は「校舎には夢と希望を持ち、充実した学校生活を送れるよう願いが込められている。たくさんの思い出を作してほしい」と式辞を述べました。また、生徒を代表して、前生徒会長の伊藤和佳奈さん(3年)が「多くの人の期待と願いが込められた校舎で伝統を築いていきます」と決意を述べました。磐井中は2015年4月に山目中と中里中が統合して開校しました。



審査員らが「あたたかさが伝わってくる」と評価
ふるさとCM大賞で「ほのぼのの賞」を受賞

県内28市町村が手作りコマーシャルでふるさとを競い合った「ふるさとCM大賞 in WATE 2016」(岩手朝日テレビ主催)の審査会は11月27日、盛岡市で行われました。作品名「ずっといたくなるまち」で参加した一関市は、特別賞の一つ「ほのぼのの賞」を受賞しました。作品の舞台は千厩町。里帰りした主人公は、これから東京に帰ります。古里の持つ素朴さ、やさしさ、温かさには後ろ髪をひかれます。思わず声に出た「帰りたくねえ」というセリフで「ずっといたくなるまち」を表現しました。CMは、今後1年間、岩手朝日テレビで50回放送されます。



希望郷いわて国体デモンストレーション3種目を体験
スポーツを通じた交流の輪を広げる

「3市1町民スポーツ交流会」(栗原市、登米市、一関市、平泉町の体育協会が主催)は11月20日、市総合体育館で行われました。同イベントはスポーツを通して交流を図ることを目的に各地域から100人が参加。「希望郷いわて国体」のデモンストレーションスポーツの「インディアカ」「スポーツ吹矢」「バウンドテニス」の3種目を通して交流を深めました。栗原市から参加した高橋紀彦さん(62)は「スポーツ吹矢をやってみたかった。参加者同士の交流が楽しかった」と笑顔を見せました。一関市体育協会の佐藤甲子夫事務局長は「今回が初の開催。スポーツを通して各地で協力し合えれば」と話していました。



新市誕生から10年を記念したトークショー
市民らが「一関の未来」熱く語り合う

「みんなで語ろう! 一関の未来予想図~未来を創るトークショー」は11月26日、市総合体育館で行われました。31人の参加者が気仙沼市出身のフリーアナウンサー・生島ヒロシさんと市の未来などについて熱いトークを交わしました。新市誕生10年を記念して行われた同イベント。「我が地域自慢」や「市の未来予想図」など4つのテーマについて、まちづくりに精通した3人のコメンテーターと共に、市民がさまざまな意見やアイデアを出しました。最年少の参加者、藤沢中3年の山口友樹乃さんは「若者が進んで行動する地域になってほしい」と発表しました。